

はじめに・・・1

序章・・・2

第 I 部 特性に応じた個々への支援実践編・・・8

1 章 発達障害の可能性のある幼児への支援のあり方を理解し、実践しよう

NO	質 問	P
Q1	問いかけに対して、全く違う答えを言うのは？	9
Q2	先生や友だちに、出来事や自分の気持ちを上手に話せないのは？	10
Q3	クレヨン等、持ち物をすぐになくしてしまうのは？	12
Q4	片付けの時間がきてもなかなかやめられないのは？	14
Q5	靴下や上履きをすぐに脱ぎたがるのは？	15
Q6	偏食が強く、ご飯以外あまり食べないのは？	16
Q7	他の子どもと一緒に座って食事をしないのは？	17
Q8	スプーン・フォーク・箸を使って食べることができないのは？	19
Q9	遊具の使い方やルールのある遊びで、頻繁に友だちとトラブルになり、かんしゃくをおこすのは？	21
Q10	赤い三輪車等、特定の遊具や、好きな遊びに固執するのは？	24
Q11	姿勢がくずれたり、身体の動きがぎこちなかったりするのでは？	25
Q12	人や物にぶつかったり、平らな所でも転んだりするのは？	26
Q13	制作途中で突然あばれたり、活動をやめてしまったりするのは？	28
Q14	大きな音がすると耳をふさいでびっくりし、突然、部屋から出て行ってしまうのは？	31
Q15	手をしょっちゅう洗っているのは？	32
Q16	集会等、大勢の中に入ると、そわそわして動いたりしゃべったりし、時には大騒ぎをするのは？	33
Q17	特定の子どもに身体を寄せたり、教員におんぶや抱っこを求めたりするのは？	35
Q18	トイレに行ってもでないのは？	37
Q19	トイレを怖がって入りたがらないのは？	39
Q20	初めての活動に、しり込みしてしまうのは？	41

Q21	1 番になれないと大騒ぎをするのは？	43
Q22	活動に入る前に気持ちがこじれていると、やれることでもやろうとしないのは？	45
Q23	わざと乱暴なことばや汚いことばを言うのは？	47

第Ⅱ部 環境づくりの実践編・・49

2章 発達障害の可能性のある子どもにとってわかりやすい学級環境をつくろう

NO	質 問	P
Q24	子ども個々とよりよい関係を結ぶためには、どのようにしたらよいですか。	50
Q25	集団づくりを進めていくためには、どのようにしたらよいですか。	51
Q26	学級経営をチームで進めていくためには、どのようにしたらよいですか。	51
Q27	わかりやすい教室環境をつくるためには、どのようにしたらよいですか。	52
Q28	子どもへの指示の出し方は、どのようにしたらよいですか。	53
Q29	学級のルールづくりは、どのようにしたらよいですか。	54

3章 発達障害の可能性のある子どもにとってわかりやすい園環境をつくろう

Q30	子ども集団とよりよい関係を結ぶためには、どのようにしたらよいですか。	55
Q31	行事・イベントを進めていく上で、どのようなことに配慮すればよいですか。	55
Q32	わかりやすい園環境をつくるためには、どのようにしたらよいですか。	56
Q33	園のルールづくりは、どのようにしたらよいですか。	57

4章 どの子どものニーズもしっかりキャッチしよう（先生に求められるもの=配慮事項）

Q34	子どもたちを園に迎える際には、どのようなことに配慮すればよいですか。	58
Q35	連絡帳を書く際には、どのようなことに配慮すればよいですか。	58
Q36	「食事タイム」の時には、どのようなことに配慮すればよいですか。	59
Q37	「お昼寝タイム」の時には、どのようなことに配慮すればよいですか。	59
Q38	子どもたちを家に帰す際には、どのようなことに配慮すればよいですか。	59

第Ⅲ部 みんなで取り組む組織的支援実践編・・60

5章 園内体制をつくろう

NO	質 問	P
Q39	「園長・所長のリーダーシップ」とは、具体的にどのようなことですか	61
Q40	「チーム支援」とは、具体的にどのようなことですか。	61
Q41	研修を実施したいのですが、どのようなことを考慮すればよいですか。	61
Q42	特別支援教育コーディネーターに求められる役割とは、どのようなことですか。	63
Q43	特別支援教育コーディネーターを指名する際には、どのようなことを考慮すればよいですか。	64
Q44	特別支援教育コーディネーターの年間活動計画を立てたいのですが、どのようなことを考慮すればよいですか。	66
Q45	ケース会議を開催する際には、どのようなことを考慮すればよいですか。	69
Q46	「個別の教育支援計画」と、「個別の指導計画」を作成・活用する際には、どのようにすればよいですか。	72
Q47	「幼稚園・保育所におけるユニバーサルデザイン化」とは、具体的にどのようなことですか。	73
Q48	幼稚園・保育所における「基礎的環境整備」と「合理的配慮」とは、具体的にどのようなことですか。	74

6章 保護者と一緒に取り組もう

Q49	保護者に、発達障害の可能性のある幼児の苦手さや不安感を伝える時には、どのようなことを配慮すればよいですか。	76
Q50	就学相談につなげるためには、保護者とどのように連携していけばよいですか。	77

7章 関係機関と連携しよう

Q51	関係（相談）機関とは、どのように連携すればよいですか。	78
Q52	相談（関係）機関とは、どのように連携すればよいですか。	78
Q53	外部サポーター等とは、どのように連携すればよいですか。	80

8章 就学に向けた支援をしよう

NO	質 問	P
Q54	小学校とは、どのように連携すればよいですか。	81
Q55	就学までの流れの中で、どのようなことを考慮すればよいですか。	82

第Ⅳ部 基礎知識の理解編・・83

9章 発達障害のある子どもが抱える問題と教育的支援について理解しよう

Q56	発達障害とは、どんな障害ですか。	84
Q57	自閉症スペクトラム障害のある子どもへの教育的支援は、どのようにしたらよいですか。	85
Q58	LDのある子どもへの教育的支援は、どのようにしたらよいですか。	85
Q59	ADHDのある子どもへの教育的支援は、どのようにしたらよいですか。	86
Q60	その他の気になる子どもへの教育的支援は、どのようにしたらよいですか。	87

10章 幼児期の心理と発達について理解しよう

Q61	幼児期の特徴は、どのようなものですか。	88
Q62	幼児期の発達の課題や困難さは、どのようなものですか。	89

11章 発達障害のある子どもの早期把握と支援の意義について理解しよう

Q63	早期把握の必要性和、支援の目的を簡潔に言うと、どのようなことですか。	90
Q64	支援のポイントは、どのようなことですか。	90
Q65	乳幼児期の母子保健事業は、どのようなものがありますか。	91

第Ⅴ部 歩みの事例編・・92

12章 ライフステージに応じた支援をつなごう

事例1	外部関係機関との連携で、落ち着いた生活ができたA君の事例	93
事例2	個別の支援計画」の活用によって、強みを生かしながら楽しく生活できたB君の事例	94

第Ⅵ部 法令等の確認編・・・97

13章 法令等を確認しよう (98)

第Ⅶ部 資料の活用編・・・99

14章 資料を活用しよう

資料1	南房総市の取組	100
資料2	サポートファイル等の活用 ・活用促進に向けた調査の結果 ・作成している市町村等	103
資料3	個別の教育支援計画・個別の指導計画（幼児用サンプル様式例 付）	119
資料4	ライフステージに応じた支援機関一覧表（発達障害児・者）	122
資料5	相談・連携連絡先一覧	123
資料6	実践の進め方がわかる書き込みシート（園内研修会用等で使用できます）	124

索引・・・126

Q & A作成委員会 委員一覧・・・127